

大分県内遺跡発掘調査概報 4

茶屋ノ元・上後迫遺跡群

持丸原遺跡群

長湯北部地区

下野遺跡

都野西部地区

家野遺跡

随雲寺・八日市遺跡

中摩遺跡

小俣地区

火渡地区

出口・先ノ原遺跡群

釘小野遺跡

都野東部地区

原遺跡

佐伯地区

広永遺跡

赤松遺跡

1996

大分県教育委員会

大分県内遺跡発掘調査概報 4

1996

大分県教育委員会

例 言

1. 本書は、大分県教育委員会が平成7年度国庫補助金を得て実施した大分県内遺跡発掘調査事業の調査概報である。
2. 大分県内遺跡発掘調査事業は、県内で実施される農業基盤整備事業及び林道事業に対し事前の詳細分布調査ならびに試掘調査を行うものであり、本書はその概要報告である。
3. 調査の実施にあたっては大分県農政部、同林業水産部、各市町村農業基盤整備関係事業担当課、各市町村教育委員会の協力を得た。
4. 遺物の実測・トレースは各調査員が行った。
5. 本書の執筆はⅠ、Ⅱ、Ⅳが後藤一重、Ⅲは各調査担当者があつた。
6. 本書の編集は各調査担当者の協力を得て後藤一重が行った。

目 次

Ⅰ. はじめに	1
1. 調査の経過	1
2. 調査団の構成	1
Ⅱ. 分布調査の概要	2
Ⅲ. 試掘調査の概要	7
1. 茶屋ノ元・上俣追遺跡群	7
2. 火渡地区	8
3. 持丸原遺跡群	8
4. 出口・先ノ原遺跡群	9
5. 長湯北部地区	9
6. 釘小野遺跡	10
7. 下野遺跡	11
8. 都野東部地区	12
9. 都野西部地区	14
10. 原遺跡	16
11. 家野遺跡	17
12. 佐伯地区	17
13. 随雲寺・八日市遺跡	18
14. 広永遺跡	19
15. 中摩遺跡	20
16. 赤松遺跡	22
17. 小俣地区	23
Ⅳ. まとめ	23

I. はじめに

1. 調査の経過

平成7年度に大分県内で実施された農業基盤整備関係事業などは約250地区を数えた。全体としては大規模な面工事は減少傾向にあり、圃場整備事業などの大規模面工事が現在実施されているのは国東半島地域や下毛郡、直入郡などの一部である。このうち豊後高田市、国東町、久住町などは一市町村で数十から百haの事業が毎年実施されている。面工事は減少に伴い増加したのが農道開発である。これらは広域農道、農免農道、一般農道、ふるさと農道、団体営農道など様々な事業名のもとに実施されており、県下各市町村に及ぶ。以上に加え農村生活化事業や住環境整備事業等が近年現われている。これらは、圃場整備や農道整備など従来の事業内容にこだわらず公園の整備等を行うなど、農業基盤整備事業自身が変化してきており文化財サイドもそれに応じた対応が要求されている。

本年度事業実施については、前年度の平成6年12月に県農政部及び林業水産部から文化課に事前の協議があり、平成7年2月、3月に県文化課が市町村教育委員会の協力を得て事業実施地区のすべてについて分布調査を行い、その取扱いについての回答を平成7年3月に県農政部ほかの関係機関に通知した。試掘調査は本年度に入った平成7年4月から平成8年2月にかけて断続的に行った。試掘調査を行った結果、埋蔵文化財が確認された地区についてはその取扱いを農政部局等と協議し、工法変更等の保存措置が取れなかった部分について記録保存のための調査を実施することとした。

また、平成8年度事業実施予定地についても県農政部から平成7年12月に協議をうけ、平成8年2月、3月に分布調査を実施した。

2. 調査団の構成

- ・調査主体 大分県教育委員会
- ・調査委員 賀川 光 夫 (大分県文化財保護審議会会長、別府大学教授)
- ・調査員 末 広 利 人 (大分県教育庁文化課課長)
 - 野田 武 志 (同 課長補佐)
 - 清水 宗 昭 (同 主幹兼埋蔵文化財第1係長)
 - 村 上 久 和 (同 主査)
 - 高 橋 信 武 (同 主査)
 - 宮 内 克 己 (同 主査)
 - 後 藤 一 重 (同 主査)
 - 吉 武 牧 子 (佐伯市教育委員会)
 - 神 田 高 司 (臼杵市教育委員会)
 - 松 本 啓 子 (安岐町教育委員会)
 - 橋 本 和 彦 (直入町教育委員会)
 - 橋 原 嘉 明 (久住町教育委員会)
- ・調査事務 油 布 芳 典 (大分県教育庁文化課課長補佐兼管理課長)
 - 井 上 美 英 (同 副主幹)
 - 原 浩 一 (同 主任)
 - 小 野 高 寛 (同 主任)

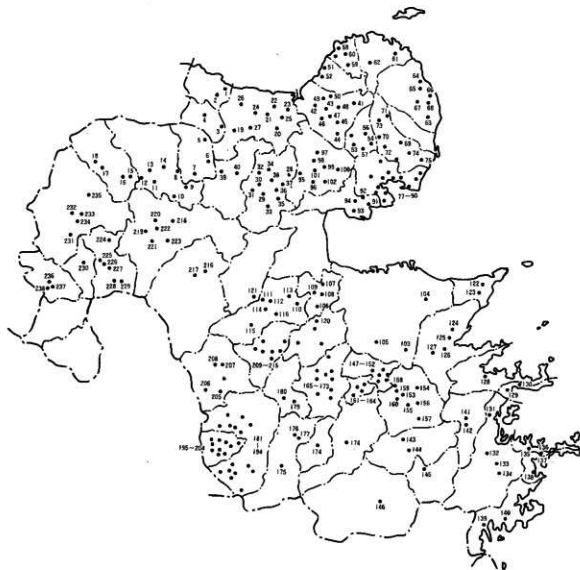
II. 分布調査の概要

分布調査は農業基盤整備関係事業実施予定地約250地区すべてについて、市町村教育委員会の協力を得て実施した。

分布調査の結果は次表に示したが、その内訳は以下に示すとおりである。

- A 事業実施予定地区が周知遺跡と重なるもの。
- B 分布調査により遺物の散布が認められた地区、または地形的に遺跡の可能性が高い地区。
- C わずかに遺跡の可能性のある地区。
- D 遺跡の存在する可能性が低い地区。
- E 再度詳細な分布調査が必要な地区。

これらのうち、A、Bの地区については試掘調査を、またCの地区については立ち会い調査を各々行った。Eの地区は、分布調査の時点では工事場所が不確定の場合や伐採などがなされないで分布調査が行えない地区で、分布調査が実施可能な状況になりしだい分布調査を行った。



第1図 平成7年度大分県内農業基盤整備事業実施地区

平成7年度農業基盤整備事業実施予定地区分布調査結果一覧

番号	市	町	村	名	事業名	地区名	分布調査結果
1	中	津	市	津市	農業経営基盤強化支援対策(0.4ha)	赤池	D
2	中	津	市	津市	水環境整備事業	下池	B
3	三	光	市	三光市	広域農道	字佐	C
4	三	光	村	三光村	農村総合整備モデル事業(800m)	三光	B
5	本	耶馬	漢	本耶馬漢	広域農道	耶馬漢東部	D
6	本	耶馬	漢	本耶馬漢	一般農道	鹿嵐	E
7	本	耶馬	漢	本耶馬漢	農免農道	深耶馬漢	D
8	耶馬	漢	町	耶馬漢町	広域農道	耶馬漢東部	E
9	耶馬	漢	町	耶馬漢町	広域農道	耶馬漢東部	E
10	耶馬	漢	町	耶馬漢町	一般農道	退鼻	D
11	耶馬	漢	町	耶馬漢町	農免農道	深耶馬2期	D
12	耶馬	漢	町	耶馬漢町	農免農道	中耶馬漢南部	E
13	耶馬	漢	町	耶馬漢町	県営圃場整備事業(24ha)	耶馬漢南部	A
14	耶馬	漢	町	耶馬漢町	新山村振興農林漁業対策	耶馬漢町	D
15	山	国	町	山国町	農免農道	中摩	B
16	山	国	町	山国町	県営圃場整備事業(11ha)	山国	B
17	山	国	町	山国町	農村総合整備モデル事業(11.4ha)	山国	D
18	山	国	町	山国町	新山村振興農林漁業対策(2.6ha)	山国	D
19	字	佐	市	字佐市	広域農道	字佐	B
20	字	佐	市	字佐市	一般農道	岩崎	D
21	字	佐	市	字佐市	一般農道	畑田	A
22	字	佐	市	字佐市	一般農道(調査のみ)	柳ヶ	D
23	字	佐	市	字佐市	ふるさと農道	佐東部	B
24	字	佐	市	字佐市	農村基盤総合整備事業(1700m)	字佐中部	C
25	字	佐	市	字佐市	農村基盤総合整備事業(1100m)	字佐東部	A
26	字	佐	市	字佐市	農村基盤総合整備事業(1000m)	字佐西部	C
27	字	佐	市	字佐市	県営土地改良総合整備事業(790m)	横山部	C
28	安	心	院	安心院	水環境整備事業	日指	B
29	安	心	院	安心院	広域農道	河院	C
30	安	心	院	安心院	農免農道	尾立	C
31	安	心	院	安心院	農免農道	小坂	C
32	安	心	院	安心院	開拓地整備事業	竜王	C
33	安	心	院	安心院	開拓地整備事業	大見尾	C
34	安	心	院	安心院	県営圃場整備事業(3ha)	新貝川	B
35	安	心	院	安心院	県営圃場整備事業(11ha)	津房第1	B
36	安	心	院	安心院	県営圃場整備事業(22ha)	安心院東部	B
37	安	心	院	安心院	県営圃場整備事業(8ha)	佐田北部	C
38	安	心	院	安心院	農村総合整備モデル事業(470m)	安心院	C
39	院	内	町	院内町	一般農道	鹿嵐	E
40	院	内	町	院内町	農免農道	大副	C
41	豊後	高田	市	豊後高田市	水環境整備事業	並石	D
42	豊後	高田	市	豊後高田市	農免農道	河内	D
43	豊後	高田	市	豊後高田市	農免農道	河内2	B
44	豊後	高田	市	豊後高田市	農免農道(調査のみ)	嶺崎	D
45	豊後	高田	市	豊後高田市	県営圃場整備事業(26ha)	真中	A
46	豊後	高田	市	豊後高田市	県営圃場整備事業(5ha)	東尾	B
47	豊後	高田	市	豊後高田市	県営圃場整備事業(40ha)	佐野	B
48	豊後	高田	市	豊後高田市	県営圃場整備事業(30ha)	荒尾	A
49	豊後	高田	市	豊後高田市	県営土地改良総合整備事業(790ha)	北後部	D
50	豊後	高田	市	豊後高田市	農業農村活性化農産物流通改善事業(10ha)	豊後高田	D
51	真玉	玉	町	真玉町	県営かんがい排水事業	瀬見	D
52	真玉	玉	町	真玉町	緊急畑地帯総合整備事業	金屋	A
53	大田	村	村	大田村	広域農道	瀬見	D
54	大田	村	村	大田村	農免農道	天堯	D
55	大田	村	村	大田村	県営圃場整備事業(5ha)	田原	C
56	大田	村	村	大田村	県営圃場整備事業(6ha)	朝田	B
57	大田	村	村	大田村	県営圃場整備事業(15ha)	波多	B
58	香々	地	町	香々地町	農免農道	香々地	D
59	香々	地	町	香々地町	県営圃場整備事業(3ha)	香々地	B
60	香々	地	町	香々地町	農村総合整備モデル事業(農村公園)	香々地	B

番号	市町村名	事業名	地区名	分布調査結果
61	国見町	一般農道	向田	D
62	国見町	農村総合整備モデル事業(500m)	国見	D
63	国東町	一般農道	治郎	D
64	国東町	農免農道	新富	C
65	国東町	県営圃場整備事業(24ha)	富来	B
66	国東町	県営圃場整備事業(6ha)	富東中	A
67	国東町	県営圃場整備事業(26ha)	国東川	B
68	国東町	農村総合整備モデル事業(600m)	国南	C
69	安岐町	一般農道	大添	D
70	安岐町	一般農道	大入	D
71	安岐町	一般農道(調査のみ)	安岐岡	D
72	安岐町	農免農道	天場	D
73	安岐町	県営圃場整備事業(3ha)	朝来	B
74	安岐町	県営圃場整備事業(12ha)	吉安	B
75	安岐町	農村総合整備モデル事業(560m)	吉松	D
76	安岐町	農村総合活性化住環境整備(2.5ha)	塩屋	B
77	杵築市	県営かんがい排水事業	奈狩	D
78	杵築市	かんがい排水特別事業	住江	D
79	杵築市	緊急畑地帯総合整備事業	池の頭	B
80	杵築市	一般農道	溝井	E
81	杵築市	農免農道	熊野	C
82	杵築市	農免農道	中津	D
83	杵築市	農免農道	大内	C
84	杵築市	開拓地整備事業	杵築尾	D
85	杵築市	県営圃場整備事業(20ha)	片野	C
86	杵築市	農村総合整備モデル事業(1630m)	杵築	D
87	杵築市	農村活性化住環境整備(9ha)	八坂	C
88	杵築市	地域農業基盤確立農家研修改善事業(1.5ha)	北杵	E
89	杵築市	地域農業基盤確立農家研修改善事業(5.0ha)	奈多	D
90	杵築市	地域農業基盤確立農家研修改善事業(5.0ha)	守江	E
91	日出町	農免農道	清水	E
92	日出町	農免農道	中山	E
93	日出町	農免農道	愛宕	E
94	日出町	県営圃場整備事業(2ha)	日出東	D
95	山香町	水環境整備事業	水口	D
96	山香町	水環境整備事業	日指	B
97	山香町	広域農道	速見	D
98	山香町	一般農道	長田	C
99	山香町	農免農道	久保	E
100	山香町	農免農道	杉ヶ	C
101	山香町	県営圃場整備事業(1ha)	山浦	D
102	山香町	団体営土地改良総合整備(4ha)	小武	C
103	大分市	広域農道	大南野	D
104	大分市	県営土地改良総合整備(1500m)	戸次	D
105	大分市	団体営土地改良総合整備(4.8ha)	市尾	D
106	狭間町	広域農道	大分中	D
107	狭間町	県営圃場整備事業(3ha)	谷部	B
108	狭間町	県営土地改良総合整備(300m)	篠原	D
109	狭間町	農村活性化住環境整備改善事業(0.2ha)	狭間由布	E
110	庄内町	広域農道	大分中	D
111	庄内町	農免農道	庄内湯平3	D
112	庄内町	農免農道	庄内湯平4	D
113	庄内町	農免農道	長宝	E
114	庄内町	県営圃場整備事業(3ha)	南庄内	C
115	庄内町	県営圃場整備事業(2ha)	阿蘇	D
116	庄内町	県営集落環境整備事業(公園)	庄内東	D
117	野津原町	広域農道	大分中	D
118	野津原町	一般農道	大芦	D
119	野津原町	農免農道	入蔵	D
120	野津原町	県営圃場整備事業(2ha)	野津原北	D

番号	市	町	村	名	事業名	地区名	分布調査結果
121	湯	布	院	町	農 免 農 道	庄内湯平3期	D
122	佐	賀	岡	町	県営かんがい排水事業	佐賀岡東部	D
123	佐	賀	岡	町	県営畑地帯総合土地改良事業	佐賀岡東部	D
124	白	杵	市	市	広 城 農 道	岡白津	B
125	白	杵	市	市	一 般 農 道	佐志生	B
126	白	杵	市	市	農 免 農 道	前田	D
127	白	杵	市	市	県営圃場整備事業(5ha)	吉小野	B
128	津	久	見	市	農 免 農 道	四浦	D
129	上	浦	町	町	一 般 農 道	最勝海	D
130	上	浦	町	町	中山間地域農村活性化総合整備事業(300m)	しおさいの町	D
131	佐	伯	市	市	広 城 農 道	県南第2	D
132	佐	伯	市	市	農 免 農 道	堅田	D
133	佐	伯	市	市	県営土地改良総合整備(650m)	城村	D
134	佐	伯	市	市	農村総合整備モデル事業(2740m)	佐伯	B
135	鶴	見	町	町	一 般 農 道	松浦	D
136	鶴	見	町	町	ふるさと農道	小浦中越	D
137	米	水	津	村	ふるさと農道	小浦中越	D
138	米	水	津	村	中山間地域農村活性化総合整備事業(1800m)	小海辺の村	D
139	蒲	江	町	町	農 免 農 道	蒲江北	D
140	蒲	江	町	町	ふるさと農道	尾浦	D
141	弥	生	町	町	山村振興等農林漁業特別対策事業(300m)	弥生町	D
142	弥	生	町	町	山村振興等農林漁業特別対策事業(300m)	弥生町	C
143	本	野	村	村	広 城 農 道 (調査のみ)	豊南野津	D
144	本	野	村	村	農村基盤総合整備事業(7.9ha)	本野津	B
145	直	川	村	村	広 城 農 道 (調査のみ)	本豊南野	D
146	宇	目	町	町	地域農林基盤整備農道整備改修事業(4.7ha)	田原	D
147	犬	飼	町	町	県営かんがい排水事業	大野川中央	D
148	犬	飼	町	町	県営畑地帯総合改良事業	大野川中央	A
149	犬	飼	町	町	農 免 農 道	大野川上2期	D
150	犬	飼	町	町	農 免 農 道	大野川上2期	D
151	犬	飼	町	町	ふるさと農道	大野川上2期	D
152	犬	飼	町	町	ふるさと農道	大野川上2期	D
153	野	津	町	町	広 城 農 道	大野津	D
154	野	津	町	町	広 城 農 道 (調査のみ)	豊南野津	E
155	野	津	町	町	一 般 農 道	野津	E
156	野	津	町	町	一 般 農 道	野津西部	D
157	野	津	町	町	農 免 農 道	野津上2期	D
158	野	津	町	町	農 免 農 道	野津上2期	D
159	野	津	町	町	ふるさと農道	大野津	D
160	野	津	町	町	県営土地改良総合整備(1000m)	大野津	A
161	千	歳	村	村	県営かんがい排水事業	大野川中央	E
162	千	歳	村	村	県営畑地帯総合土地改良事業	大野川中央	D
163	千	歳	村	村	一 般 農 道	大倉波	D
164	千	歳	村	村	農村総合整備モデル事業(1100m)	千歳	E
165	大	野	町	町	水環境整備事業	師田原2期	D
166	大	野	町	町	広 城 農 道	大野川中流	A
167	大	野	町	町	広 城 農 道	大野川中流	E
168	大	野	町	町	一 般 農 道	大沢田	D
169	大	野	町	町	農 免 農 道	小切畑	D
170	大	野	町	町	農 免 農 道	直畑北	B
171	大	野	町	町	県営圃場整備事業(4ha)	大野東部	E
172	大	野	町	町	県営圃場整備事業(1ha)	大野西部	E
173	大	野	町	町	農村総合整備モデル事業(農村公園)	大野	D
174	清	川	村	村	農 免 農 道	清川	A
175	清	川	村	村	広 城 農 道	大野川中流	B
176	緒	方	町	町	一 般 農 道	越生	A
177	緒	方	町	町	農村総合整備モデル事業(300m)	緒方	D
178	三	重	町	町	農 免 農 道	三重中	A
179	朝	地	町	町	県営土地改良総合整備(70m)	下野	A
180	朝	地	町	町	農村総合整備モデル事業(農村公園)	朝地	D

番号	市町村名	事業名	地区名	分布調査結果
181	竹田市	県営畑地帯総合土地改良事業	大野川上流	C
182	竹田市	県営畑地帯総合土地改良事業	大野川上流	A
183	竹田市	広域農道	大野川上流	A
184	竹田市	一般農道	大野川上流	C
185	竹田市	一般農道	大野川上流	C
186	竹田市	一般農道	大野川上流	C
187	竹田市	農免農道	大野川上流	C
188	竹田市	農免農道	大野川上流	C
189	竹田市	農免農道	大野川上流	C
190	竹田市	農免農道	大野川上流	C
191	竹田市	農免農道	大野川上流	C
192	竹田市	農免農道(調査のみ)	大野川上流	C
193	竹田市	県営圃場整備事業(21ha)	大野川上流	B
194	竹田市	農村総合整備モデル事業(360m)	大野川上流	B
195	萩町	県管かんがい排水事業	萩原	C
196	萩町	県営畑地帯総合土地改良事業	大野川上流	C
197	萩町	県営畑地帯総合土地改良事業	萩原	C
198	萩町	農免農道	萩原	A
199	萩町	農免農道	萩原	A
200	萩町	農免農道	萩原	D
201	萩町	県営圃場整備事業(3ha)	萩原	D
202	萩町	県営圃場整備事業(3ha)	萩原	D
203	萩町	県営圃場整備事業(2ha)	萩原	D
204	萩町	県営集落環境整備事業(公園)	萩原	B
205	久住町	県営畑地帯総合土地改良事業	白田	D
206	久住町	県営圃場整備事業(3ha)	白田	D
207	久住町	県営圃場整備事業(45ha)	都野東部	A
208	久住町	県営圃場整備事業(20ha)	都野西部	B
209	直入町	水環境整備事業	直入	D
210	直入町	一般農道	馬見塚	A
211	直入町	一般農道	馬見塚	D
212	直入町	一般農道	馬見塚	D
213	直入町	ふるさと農道	長湯	D
214	直入町	県営圃場整備事業(20ha)	長湯北部	B
215	直入町	県営圃場整備事業(20ha)	長湯北部	E
216	九重町	広域農道	玖珠	D
217	九重町	ふるさと農道	玖珠	D
218	玖珠町	広域農道	玖珠	D
219	玖珠町	農免農道	玖珠	D
220	玖珠町	農免農道	玖珠	D
221	玖珠町	農免農道	玖珠	D
222	玖珠町	農免農道(調査のみ)	玖珠	D
223	玖珠町	団体育土地改良総合整備(7.3ha)	玖珠	D
224	天瀬町	広域農道	日田	D
225	天瀬町	農免農道	日田	D
226	天瀬町	農免農道	日田	D
227	天瀬町	農免農道	日田	D
228	天瀬町	中山間地域農村活性化総合整備事業(7.3ha)	日田	D
229	天瀬町	農免農道	日田	D
230	大田町	広域農道	日田	A
231	日田市	広域農道	日田	D
232	日田市	県営畑地帯総合土地改良事業	三芳	A
233	日田市	農免農道	三芳	D
234	日田市	県営圃場整備事業(4ha)	三芳	D
235	日田市	団体育土地改良総合整備(3.0ha)	三芳	C
236	前津江村	農免農道	大野明石	D
237	前津江村	農免農道	大野明石	D
238	前津江村	中山間地域農村活性化総合整備事業	前津江	D

Ⅲ. 試掘調査の概要

試掘調査は、前章で述べた分布調査結果のA、Bの地区において実施された。

試掘調査実施地区のうち、宇佐市、安心院町、豊後高田市、真玉町、杵築市、竹田市、日田市、大野町、緒方町、三重町については各々の教育委員会が対応した。また、上記以外の市町村については県文化課が対応し、佐伯市、臼杵市、安岐町、直入町、久住町については各教育委員会職員に調査員を委嘱した。

以下、県下文化課で対応したものにつき調査の概要を述べる。

1. ちややのもと かみうしろご 茶屋ノ元・上後迫遺跡群

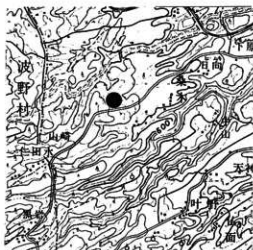
- ・所在地 直入郡荻町大字桑木
- ・事業名 農免農道荻西部2期地区
- ・調査対象面積 1000m
- ・調査担当者 後藤一重

調査の概要 遺跡は荻町西部の標高約600mの台地に立地する。荻町は、県下でも遺跡が密集する地域で、粗密はあるものの台地上のほとんどすべてが遺跡と言っても過言ではない状況である。近接して弥生～古墳時代の住居跡が多数確認されている蜘蛛手遺跡がある。また、川を隔てた北側及び南側の台地には、当地域における弥生～古墳時代の代表的な集落である古賀遺跡、中山遺跡が存在する。

本年度の工事予定は約1000mであるが、その半分は台地斜面部や台地上の谷状部である。試掘調査は重機を使用し行い、急斜面部をのぞき大部分に調査区を設定した。その結果、台地中央部で弥生時代の遺構が確認された。しかし、その密度はそれほど高くなく、長さ約300mのトレンチにおいて住居跡1基、溝1本等が確認されたのみである。

このほか、縄文時代包含層確認のため、各所で作業員による掘り下げを行ったが、遺物は確認されなかった。

所見と取扱い 確認された遺跡の取扱いについて、県竹田直入地方振興局耕地課及び荻町教育委員会と協議した結果、保存措置が不可能なため平成8年度に本調査を行うこととした。



第2図 茶屋ノ元・上後迫遺跡群



茶屋ノ元・上後迫遺跡群遺構検出状況

ひわたし 2. 火渡地区

- ・所在地 直入郡萩町大字麻渡
- ・事業名 大野川上流水利事業
- ・調査対象面積 800m
- ・調査担当者 後藤一重

調査の概要 調査地区は萩町西部の台地上である。周辺には弥生～古墳時代の住居跡が多数確認された政所西遺跡や縄文時代早期の著名な遺跡である政所遺跡などが存在する。

調査は水路管理設に伴うもので全長約800mにおよぶ。その大部分は下萩岳の斜面で、平坦部を中心に調査区を設定した。重機により表土を除去し遺構の検出につとめたが、遺構はまったく確認されなかった。さらに、縄文時代包含層確認のため作業員による掘り下げも行ったが、遺物はまったく確認されなかった。以上から、工事の実施にあたって問題ないと判断した。



第3図 火渡地区位置図

もちまるぼる 3. 持丸原遺跡群

- ・所在地 大野郡野津町大字持丸
- ・事業名 県営土地改良総合整備事業野津地区
- ・調査対象面積 1000m
- ・調査担当者 後藤一重

調査の概要 野津町では火山性の台地が発達しており、各台地上には旧石器時代以来の遺跡が多数見られる。

農道建設に伴う調査対象地区は、谷部から一部台地にかかる部分である。分布調査の際中世土器片などが採集されたため試掘調査を実施した。台地部は覆せ尾根状の狭い範囲である。ここでは層厚約20cmの耕作土層下がロームで、遺構は検出されなかった。また、ローム層を作業員により掘り下げたが、旧石器時代遺物は確認されなかった。谷部はクロボク層が厚く堆積しており、流れこみと思われる中世遺物がわずかに出土した。



第4図 持丸原遺跡位置図

4. 出口・先ノ原遺跡群

- ・所在地 大野郡大綱町大字山奥字出口ほか
- ・事業名 県営畑地帯総合土地改良事業大野川中央地区
- ・調査対象面積 800m
- ・調査担当者 後藤一重

調査の概要 調査対象地区はすでに周知の遺跡である。分布調査の折にも周辺の畑地から弥生土器片が採集された。この地区は以前、深耕事業に伴う事前の試掘調査が実施されており、その際には遺構・遺物はまったく確認されていない。遺物の散布状況もかなり散発的なことから、台地上に住居跡が点在する状況であろうと推定される。

調査は現道拡幅による農道建設のため、拡幅部分に重機により調査区を設定した。その結果、大部分の場所は厚い耕作土下がローム層で、住居跡などの遺構や旧石器時代の包含層は確認されなかった。



第5図 出口・先ノ原遺跡位置図

5. 長湯北部地区

- ・所在地 直入郡直入町大字柚柑子
- ・事業名 県営圃場整備事業長湯北部地区
- ・調査対象面積 20ha
- ・調査担当者 橋本一彦

調査の概要 今回試掘調査の対象となったのは町内の南西、久住町との境界に近い原地区8.97haと柚柑子地区10.61haである。

原地区は町内中央を流れる芹川の支流、河内川北岸の河岸段丘上標高500～520mに位置する。柚柑子地区は河内川南岸、原地区から約200m上流の河岸段丘上標高530～584mに位置する。調査は工事で切土になる部分を中心に、トレンチを設定して行った。その結果、原地区は調査区の約半分が表土から30cm程掘り下げたところに礫層が広がっており遺構、遺物ともに検出されなかった。柚柑子地区は遺構は検出しなかったが、調査区西端で土器片が出土した。しかし出土遺物はわずかであったため、工事が行われても問題ないと判断した。



第6図 長湯北部地区位置図

6. 釘小野遺跡

- ・所在地 直入郡直入町大字上田北字釘小野
- ・事業名 県営園場整備事業上田北地区
- ・調査対象面積 20ha
- ・調査担当者 橋本一彦

調査の概要 上田北地区は直入町中央やや北寄りに位置する。工事区は釘小野地区と梶屋地区2地区で、今年度対象となる釘小野地区は町内中央を流れる大分川水系芹川の支流である城後川の河岸段丘上に立地する。上流から北岸に高野岳地区・釘小野地区・城後地区が、また高野岳地区の対岸に宇層地区が所在する。

試掘調査では、工事で削平される部分を対象にそれぞれ8ヶ所・3ヶ所・12ヶ所・7ヶ所のトレンチを設定して確認調査を行った。その結果、釘小野地区から古墳時代の堅穴遺構を確認したため再度、範囲確認調査を行い現在も調査中である。その他の地区からは、遺構・遺物とも検出されなかった。

調査区は南東向きのゆるやかな斜面で、現在までに堅穴遺構14基の他、多数の土坑及び柱穴群を検出している。遺構は主に北側の高い部分に多く認められ、南側の低く川に近い所は礫層が広がっていた。残存状態は良好で堅穴遺構は約0.6mを残すものもある。堅穴遺構の規模は一辺約4～6m程の方形で、深いものは、レンズ状に黒色と黄色の砂質火山灰が堆積していた。張出しを持ち、そこに炉跡が確認できたものが一軒ある。

遺跡の時期は出土遺物から古墳時代前期頃と考えられる。土坑や柱穴群は遺物が少ないために時期の決定が困難であるが、堅穴遺構よりも新しい。また、掘立柱建物等は確認されていない。

なお、上田北地区は来年度残りの梶屋地区の工事が予定されている。



第7図 釘小野遺跡位置図



第8図 釘小野遺跡本調査予定地

7. ^{しもの}下野遺跡

- ・所在地 大野郡朝地町大字下野
- ・事業名 県営土地改良整備事業下野地区
- ・調査対象面積 10ha
- ・調査担当者 後藤 一重

調査の概要 朝地町は、谷と丘陵が複雑な地形をつくりだす。遺跡も縄文時代から中世まで多くの遺跡があり、縄文時代の田村遺跡や中世の一万田氏館跡など著名なものも多い。また、中世文書などの文書資料も豊富に残存し、中世研究者にとっても絶好のフィールドとなっている。景観的にも、中世的景観が良好に残る他域であったが、近年、圃場整備事業などが進行し徐々にその姿を変えているのは残念なことである。

今回の調査対象地区は平井川右岸の地区で、標高190mほどである。丘陵が川近くまで迫り谷底平野の面積は狭い。試掘調査は重機と作業員により行い、切土予定地を中心に調査区を設定した。本年度の対象地区が平井川沿いの部分であったせいか、大部分の調査区では耕作土下が厚い青灰色粘土層となっていた。そのなかで、川に向かいのびた丘陵の先端部で遺構を確認した。遺構は、住居跡、土壇、住穴などである。遺物が少なく厳密な時期は不明であるが、弥生～古墳時代に位置づけられるものと思われる。地形的な状況から遺跡はそれほど広がらないものと推定され、周辺の低湿地水田を基盤とする小集落であったと考えられる。

所見と取扱い 小規模ながら良好な遺跡が確認され、その取扱について県大野地方振興局耕地面課、朝地町教育委員会と協議した。その結果、一部は盛土および工法変更により保存されることになったが、保存措置のとれなかった部分については朝地町教育委員会が平成8年1月より本調査を実施した。



第9図 下野遺跡位置図



下野遺跡全景



下野遺跡遺構検出状況

8. 都野東部地区

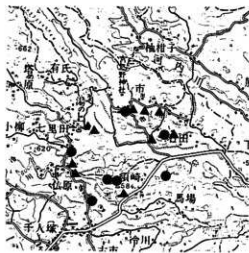
みやこの

- ・所在地 直入郡久住町大字仏原字石田・須崎・仏原・市他
- ・事業名 県営担い手育成基盤整備事業都野東部地区
- ・調査対象面積 45ha
- ・調査担当者 高橋 信 武

調査の概要 昨年度に調査した石田遺跡・市遺跡と同じく、隣接した地区で大規模区画の圃場整備が行われるため、掘削予定地の水田を対象に試掘を行った。第11図で仮に1～18としたもので遺跡を確認した。

内容は1（縄文晩期の遺物包含層）、2・4・5・16（中世の遺物・遺構）、3・9・10（弥生・古墳時代の堅穴住居跡）、6・7・12（近世の遺物・遺構）、8（弥生時代の遺物包含層）、11・13～15・17・18（古代の遺物・遺構）である。

所見と取扱い 調査後に竹田直入地方振興局耕地課と協議した結果、図中●印の遺跡は設計変更を行って破壊しない方法に切り替えたが、▲印については引き続き本調査することとした。9・10は時間的な関係で翌年度まで調査が終了しない予定である。



第10図 都野東部地区位置図



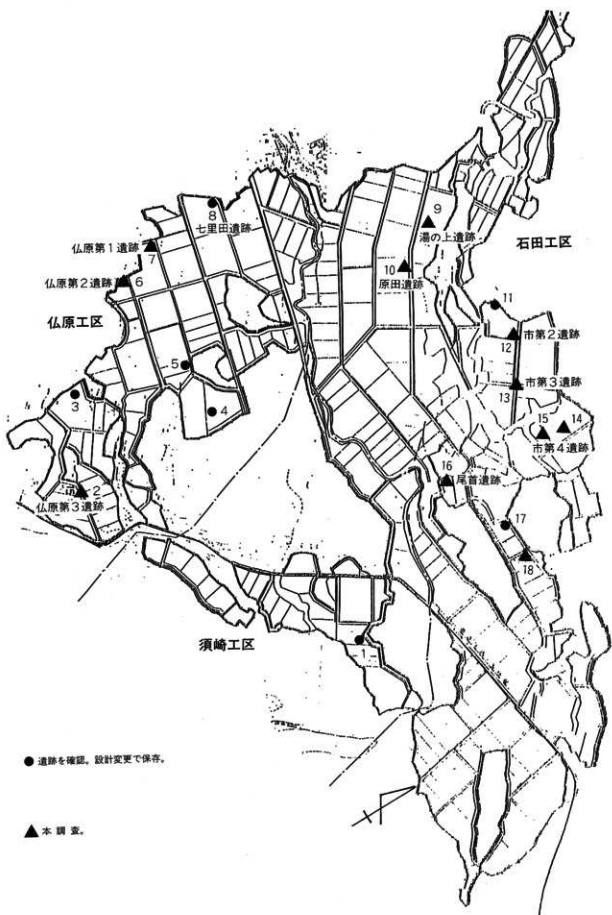
須崎遺跡調査状況



仏原遺跡調査状況



中ノ城遺跡調査状況



第11図 都野東部地区確認遺跡位置図

みやこの
9. 都野西部地区

- ・所在地 直入郡久住町大字有氏・仏原
- ・事業名 県営担い手育成基盤整備事業都野西部地区
- ・調査対象面積 20ha
- ・調査担当者 宮内 克己・橋原 嘉明

調査の概要 調査の対象地区は、久住町の東～東北部に位置し、九州の主峰である久住山・大船山の南麓の一角を占める。一帯は、大分川水系芹川の源流域(標高550～770m)にあたり、その支流市川・七里田川・冷川の周辺に水田は拓かれているが、全体にやや狭く不整形な棚田が多い。

本年度の事業対象地域は、大字有氏字板切を中心とする一帯と、大字仏原の一部に大別される。

板切地区は、標高650～680m余りの高地に位置し、当地域においても水田耕作の限界にあたる。調査は、工事により削平を受ける部分を中心にトレンチを任意に設定して実施した。重機と人力によるトレンチの総数は47を数え、その結果、下記の4箇所において遺跡の存在を確認した。

板切第Ⅰ遺跡

板切地区の西端付近、標高670m余の緩斜面に位置する。直径20数cmの小規模な柱穴からなる掘立柱建物(2×3間)1棟が検出されたが、他には明瞭な遺構は認められなかった。

板切第Ⅱ遺跡

第Ⅰ遺跡の左側にある舌状丘陵部において確認された弥生終末～古墳時代の集落跡と考えられる遺跡である。丘陵部は、東西幅約50m、南北長約100mの規模を有し、その中心付近において3棟の住居跡と土壇等が検出されたが、全体では十基以上の住居跡から構成されるものと思われる。

板切第Ⅲ遺跡

第Ⅱ遺跡の北側に位置し、小規模な谷地形の奥部において古墳時代前期頃の住居跡2基と弥生時代中期及び中世の遺物が出土した。地形からすれば数棟の住居跡からなる比較的小規模の集落跡と推定されよう。



第12図 都野西部地区位置図



第13図 各遺跡位置図

板切第IV遺跡

本地区の中央部に位置する緩斜面において確認された遺跡である。試掘トレンチで検出された遺構は住居跡1基と少ないことから第III遺跡と同様の規模・性格と考えられよう。

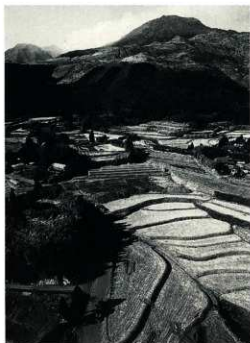
仏原地区は、都野西部地区の最も東側に位置し、標高560～590mを測り板切り地区に比べ比較的平坦な地形を呈する所が多い。しかしながら、遺跡の存在は次に述べる1箇所であった。これは、水田造営時に原地形がかなり改変された結果によるものであろう。

川原田遺跡

本地区の西側中央付近において確認された遺跡で、中世の掘立柱建物数棟を構成すると思われる柱穴が検出された。

所見と取扱い 板切地区では4箇所、仏原地区では1箇所において遺跡の存在が確認された。これらは弥生時代～古墳時代と中世を主とするが、板切第II遺跡を除きいずれもやや小規模ではあるものの、考古資料の少ない当地域においてはその空白を埋める重要な資料となる。

各遺跡の取扱いについて、関係各機関とその保存のための協議を持ったが、いずれも工法変更等による現状保存は困難となり本調査を実施することとなった。



板切地区（背後は久住山）



板切第II遺跡



板切第IV遺跡

10. 原遺跡

・所在地	臼杵市大字大野字原
・事業名	広域農道開白津
・調査対象面積	約500m
・調査担当者	神田高司

調査の概要 原遺跡は、熊崎川中流東域に位置する、標高約10～20mの台地上に所在している。谷を挟んだ北側には大野遺跡が、西側には古墳時代後期の芝尾崎横穴が分布し、周辺には良好な弥生期～古墳期の遺跡が多数存在することが知られている。

試掘対象地となったのは、原遺跡北縁部にあたる、標高10～12mの台地縁辺と、その下の標高7～8mの水田（休耕田）、併せて約2000㎡である。この範囲に試掘坑を6本設定し調査を進めた。第1トレンチでは、表土（近～現代の耕作土層）が現地表下50cmにわたり堆積し、その直下から遺構面である黄褐色ローム層が検出された。この面からは竪穴式住居跡と見られる遺構が確認された。第2トレンチでは現地表下30cmの位置まで水田耕作土が堆積し、その直下は地山である灰白色粘質土層となっている。この層面からは溝状の遺構が検出された。第3トレンチでは、近～現代の水田耕作土を除去すると、現地表下20cmから溝状の遺構が確認された。この面と同レベルで灰色粘土層が確認されたが、古い時期の水田耕作土の可能性も考えられる。この土層は、第4・6トレンチでも確認されている。

所見と取扱い 以上のことから、調査対象地周辺にはこの他にも多数の遺構が広範囲にわたり分布している可能性が高く、これらの状況を明らかにするための本格的調査が必要と判断される。



第14図 原遺跡位置図



原遺跡遺構検出状況 (1)



原遺跡遺構検出状況 (2)

11. ^{いえの}家野遺跡

- ・所在地 白杵市大字家野字鍋倉
- ・事業名 団体営農道家野地区
- ・調査対象面積 1300m²
- ・調査担当者 神田 高士

調査の概要 団体営農道家野地区建設工事に伴う試掘調査は、家野台地西端の山裾部約1300m²を調査対象地として行った。調査はまず2m×5mのグリッドを5か所に設定し、遺構の有無を確認しながら適宜状況にあわせて調査区を広げる方法で行った。その結果、調査区全面にわたり遺構は確認できなかった。また、遺物は表土層から近世陶磁器片が数点出土したのみである。



第15図 家野遺跡位置図

12. ^{さいき}佐伯地区

- ・所在地 佐伯市大字木立
- ・事業名 農村総合整備モデル事業
- ・調査対象面積 350m
- ・調査担当者 吉武 牧子

調査の概要 調査対象地区は木立川の支流を見下ろす緩傾斜地を利用した畑地に位置する。工事は幅約1mの市道を4mに拡幅するもので工事延長は350mである。

調査は現道路下に埋められている水道管を避けるため、重機を使用して道路両側に幅70cmのトレンチを5本入れて行った。各トレンチとも耕作土を55~100cm掘り下げると黄褐色土層、黒褐色土層の順に堆積していたが、いずれの層でも遺構は確認できず、遺物も出土しなかった。

よって工事の実施に当たり問題はないと判断し、予定通り工事を行った。



第16図 佐伯地区位置図

13. 随雲寺・八日市遺跡

- ・所在地 下毛郡耶馬溪町大字樋山路字八日市・同大字大島字随雲寺
- ・事業名 県営圃場整備事業耶馬溪南部地区
- ・調査対象面積 5ha
- ・調査担当者 村上久和

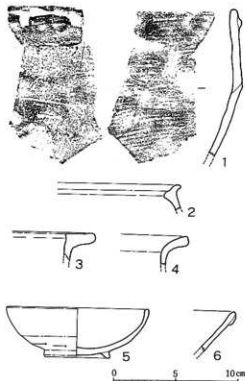
調査の概要 調査対象地区は山国川を挟む東西の河岸段丘上である。調査前はどこも周知遺跡にはなっていなかった。

試掘調査はバック・ホーによって随雲寺地区では幅3m、長さはそれぞれの水田の広さに応じて10mから50m前後のトレンチを15ヶ所設定した。段丘下部は表土下10cmの所でレキ層になるが、中部から上部段丘は表土下60cmまで3層の水田層が確認され、最下面の水田面床土から玉緑白磁口縁部片が出土した。このことから鎌倉時代以降にこの地域の水田開発が行なわれたことが確認された。八日市地区では5m×5mのグリッドを25ヶ所、幅3cm、長さ10mのトレンチを5ヶ所それぞれ設定した。段丘下部は随雲寺地区同様表土下はレキ層で、段丘上部で遺構が確認された。そのグリッドを拡張して遺構の性格を部分的に調査した。その結果、縄文時代晩期の土坑、弥生時代中期の竪穴住居跡、中世末の掘立柱建物群などを検出した。

所見と取扱い なお、遺構は、中津下毛地方振興局耕地課、耶馬溪町産業課、同教育委員会等と協議の結果50-100cmほど盛土をして工事を行なうこととした。



第17図 随雲寺・八日市遺跡位置図



第18図 随雲寺・八日市遺跡出土土器
(1～5は八日市、6は随雲寺)

ひろなが 14. 広永遺跡

- ・所在地 東国東郡安岐町大字吉松
- ・事業名 県営圃場整備事業吉松地区
- ・調査対象面積 92,000㎡
- ・調査担当者 松本啓子

調査の概要 広永遺跡は町の中心部を流れる安岐川の支流吉松川の左岸に位置する。この遺跡がある吉松地区は安岐川下流域の広大な平野に接しており、周辺には前年度本調査を行なった吉松市場遺跡（縄文時代後期・古墳時代・中世）、一の瀬古墳などがある。またこの地区には数多くの五輪塔や石塔が散在している。

広永遺跡は試掘調査により方形の住居跡が3基確認され、これらの遺構は重複しているものと思われる。また遺物は土器片が数点出土しているが時期を断定できるものは検出できなかった。しかし遺構から察すると弥生時代～古墳時代の住居跡と思われる。

また他のトレンチから黒色の包含層を検出したが、この層には中世以降の土器片が含まれていた。

所見と取扱い 広永遺跡は遺跡の北側に流れる吉松川を利用し、集落を営んでいたものと思われるが昨年度本調査した一の瀬古墳を始め、他の古墳群と何らかの関係があったかどうか、単一的な集落であったかどうかが目される。

また試掘調査により遺跡は小規模な集落と思われる。

今回遺構が一ヶ所に集中していたため、東国東地方振興局耕地課との協議で、計画変更により、広永遺跡は保存可能となった。



第19図 広永遺跡位置図



広永遺跡検出遺構

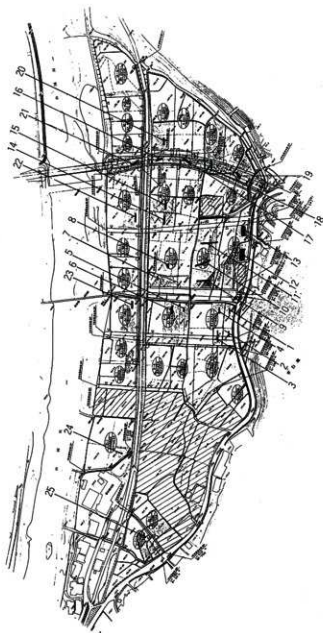


広永遺跡出土遺物

なかま 15. 中摩遺跡

- ・所在地 下毛郡山国町大字中摩字白地
- ・事業名 県営圃場整備事業山国地区
- ・調査対象面積 11ha
- ・調査担当者 高橋 信 武

調査の概要 調査対象地区は山国町の東端に位置し、山国川の右岸に広がる河岸段丘上にある。工事の前に重機と人力作業で25ヶ所のトレンチを入れて調査した。



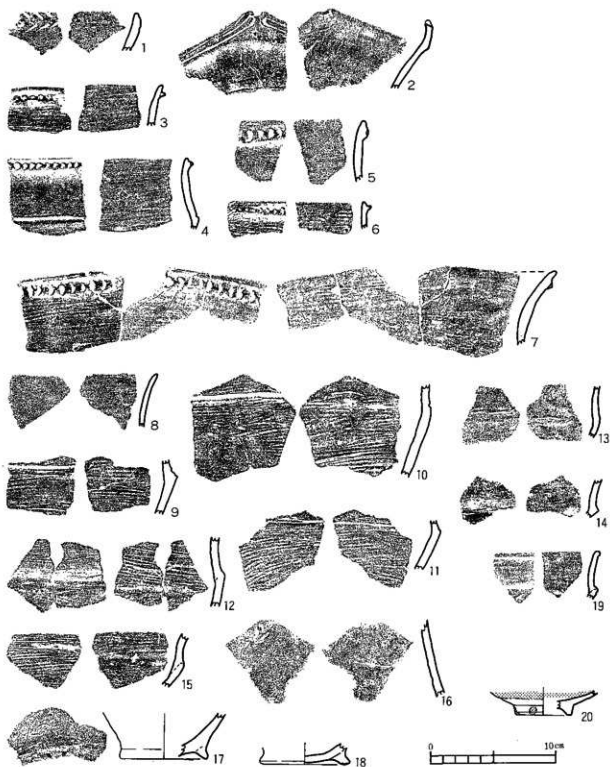
第21図トレンチ配置状況図



第20図中摩遺跡位置図

調査の結果、2・10トレンチ等で近世陶磁器、9トレンチ地表面55cmで須恵器、22トレンチの地表面45cmからの茶褐色土層で古墳時代・中世・縄文時代の遺物、23トレンチで縄文時代晩期の溝と遺物が出土した。このうち、23トレンチの状況は地表面20cmまで表土、その下に25cmの黄褐色粘土層（床土）があり、この下面が溝の検出面で灰色砂質土層に掘り込まれていた。溝は南西—東北方向に走る幅約70cm・深さ15cmの規模で黒褐色土が埋土である。

第21図1・2は22トレンチ出土。1はハの字状の沈線文をもつ。縄文後期の北久根山式か。2は同じく西平式土器。3～18は23トレンチ溝出土の晩期土器である。3～11は壺形土器、14・15は浅鉢形土器、16は壺形土器で外面には赤色顔料が塗られている。19は25トレンチ出土の浅鉢で胴外面に沈線文をもつ。北久根山式。20は肥前内の山原17C後半～18C前半の緑軸磁器。破壊される予定の23トレンチ溝は設計変更で保存することとなった。



第22図 中摩遺跡の遺物

16. 赤松遺跡

あかまつ

- ・所在地 西国東郡大田村大字杏掛
- ・事業名 県営圃場整備事業大田地区
- ・調査対象面積 約10ha
- ・調査担当者 後藤 一重

調査の概要 調査対象地区は桂川と石丸川が合流する地点で、大田村で最大の平野を形成する。桂川沿いのやや上流部には、古城得遺跡、小川原遺跡、岡の前遺跡、灰土山古墳群などがあり、当地区が弥生時代から中世に至るまで地域の中核を担っていたことが分かる。

調査対象地区における桂川左岸の水田は、桂川に設けられた大井堰の水を利用する大井堰掛りの地区である。大井堰からの幹線水路は、A、Bの2系統に分かれる。A系統は山すそを走り段丘上の水田を潤す。水路はさらにう回し、傾斜をさかのぼるように石丸川右岸の水田を潤し、近世の石丸村と杏掛村境まで達する。一方、B系統は段丘下の水田を潤す。水路は、古川（ふるかわ）と呼ばれる旧河道の痕跡と推定される縁を走る。これらの地区の試掘は、重機と作業員により行った。当初、桂川沿いの段丘上に遺跡が存在するものと想定されたが、若干の土器が出土したのみで、問題となる遺構は確認されなかった。またB系統の水路が潤す段丘下は砂礫層で、遺構・遺物は確認されなかった。以上から、大井堰A系統水路流域が、中世以前にさかのぼる開発であることが推定される。ただし、山すそに水路を走らせ石丸川右岸までもっていったのは近世の仕事であろう。また、B系統水路が縁を走る旧河道は古代から中世のある段階までの川と思われ、従ってこの地区の開発はA系統水路流域よりも遅れるものと推定される。

所見と取扱い 桂川左岸には、周知遺跡の赤松遺跡が存在する。隣接する泉道拡幅の際調査され、古代の遺物が出土している。この部分については、来年度本調査することとした。



第23図 県営圃場整備事業大田地区位置図



第24図 赤松遺跡とその周辺

17. ^{おまた}小俣地区

- ・所在地 東国東郡安岐町大字明治
- ・事業名 県営圃場整備事業朝来地区
- ・調査対象面積 42,000㎡
- ・調査担当者 松本啓子

調査の概要 試掘調査した小俣工区は両子山から放射線状に伸びる河川のひとつ小俣川沿いに位置する。この川は両子山から約5km南にあり、河川から山際までの距離は短い。試掘調査は対象地に1.5×20mのトレンチを計9本入れトレンチの一部から鉄滓を検出した。このことよりトレンチを拡張したが、他に遺構、遺物を検出するには至らなかった。しかし、鉄滓が出土したことより、この周辺に鉄関連の施設が存在した可能性はある。



第25図 小俣地区位置図

IV. まとめ

圃場整備などの大規模な面工事については、大分県全体としては減少傾向にある。しかし、耶馬溪町、豊後高田市、大田村、国東町、安岐町、久住町、直入町等では、現在事業がピークをむかえている。なかでも久住町、豊後高田市が面積的に突出している。また、圃場整備事業自体についても、一辺100mの大規模圃場をとり入れる例が目立つようになってきた。

久住町では単年度で数十haが事業の対象になっており、それらに伴う試掘調査で二十数ヶ所の遺跡が確認された。圃場整備事業が通年施工でないため、来春の作付けにまにあわせるべく試掘に引き続き久住町教育委員会が本調査を実施している。しかし、現場は標高600～700mを測る高冷地のため、雪や霜が調査の進行を妨げている。久住町は来年度以降さらに事業が増す傾向にあり、それへの対応が懸念される。

豊後高田市も単年度で約100haの事業が実施されている。県下の中でも圃場整備進捗率が低いため、来年度以降事業地区がさらに増える見通しである。豊後高田市では条里地割が何ヶ所かで見られるが、これらも事業の対象地区となっている。今年度2ヶ所、来年度はさらに増えて4ヶ所の条里地割がかかる。県下の条里地割が圃場整備のため多くが消滅しているなか、保存にむけた協議やきちんとした調査の実施が望まれる。

このほか、山国町、耶馬溪町、安岐町、大田村、直入町、朝地町でも圃場整備に伴う試掘で遺構・遺物が確認された。このうち、山国町、耶馬溪町、安岐町では農政部局個との協議の結果、保存措置がとられることとなったが、直入町と朝地町では今年度に、また大田村では来年度各々本調査を実施することとした。

一方で、面工事の減少傾向にともない農道等の事業が増加している。広域農道、一般農道、ふるさと農道など様々なものがみられる。試掘調査の結果、今年も萩町、臼杵市で遺跡が確認され、両者とも来年度本調査を実施することとした。

大分県内遺跡発掘調査概報 4

1996年3月31日

発行 大分県教育委員会
印刷 日の丸印刷株式会社
